

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 中央スポーツ医療専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人国際中央学園 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数 | 省令で定める基準単位数又は授業時数 | 配置困難 |
|--------|----------|-----------|-----------------------------|-------------------|------|
| 医療専門課程 | スポーツ柔整学科 | 夜・通信 | 11単位 | 9単位 | |
| | | 夜・通信 | | | |
| | | 夜・通信 | | | |
| | | 夜・通信 | | | |
| (備考) | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|--|
| ホームページ トップ画面→情報公開 「実務経験のある教員等による授業科目」 (https://www.ist.ac.jp/moodle/course/view.php?id=24) |
|--|

3. 要件を満たすことが困難である学科

| |
|-----------|
| 学科名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 中央スポーツ医療専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人国際中央学園 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

法人本部での閲覧にて公開

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|------------|--------------------|---------------------|
| 非常勤 | 元県立高等学校学校長 | R5.6.1～ R8.5.31 | 組織運営体制への チェック機能 |
| 非常勤 | 元県立高等学校学校長 | R5.6.1～ R8.5.31 | 組織運営体制への チェック機能 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 中央スポーツ医療専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人国際中央学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|--|---|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【授業計画書の概要】 授業計画書は授業の目的、到達目標、授業内容・方法、年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたものであり、毎年講師が決定される2月頃に授業計画書の作成依頼を行う。前年度と同じ講師の科目であっても学習効果の向上や最新の情報を取り入れる等の見直しを行って、学生が各授業科目の準備学習等を進められるようにしている。また、関連する教科の講師間の内容や進捗状況の把握等に利用している。</p> <p>【授業計画書内容】</p> <p>(1)科目名 (2)講師名 (3)分野(基礎・専門基礎・専門) (4)開講時期 (5)学年 (6)取得単位数 (7)講義目的(到達目標) (8)講義内容 (9)講義の進め方(指導方針) (10)成績評価(方法・基準) (11)使用教材(教科書、教材等) (12)備考(講師の実務経験、報告書内容等)</p> <p>【授業計画書の作成過程】</p> <p>12月 次年度の授業依頼 1月 時間割作成 2月 授業計画書作成依頼 3月 授業計画書提出 4月 授業計画書公表</p> | |
| 授業計画書の公表方法 | ホームページ トップ画面→情報公開 「授業計画」 (https://www.ist.ac.jp/moodle/course/view.php?id=24) |

| | |
|---|---|
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>【成績評価の取り組み概要】</p> <p>(1) 学年開始前の講師会において、成績評価方法等についてレベル合わせ、確認を行う。</p> <p>(2) 前期期末試験、後期期末試験、普段点より総合評価を算出し、進級判定会議にて決定する。</p> <p>【成績の評価】</p> <p>(1) 試験の成績評価は、各科目とも100点を満点とし、いずれも60点以上をもって合格点とする。</p> <p>(2) 各授業科目の評価点は学期ごとに、期末試験、臨時試験、あるいは授業科目担当者が適宜行う試験の点数等を総合して授業科目担当者が決定する。</p> <p>(3) 各授業科目の前期及び後期で出された評価点をもとに、年度末に総合評価する。</p> <p>(4) 評価は80点以上を「優」70点以上を「良」60点以上を「可」の3段階で評価し、60点未満は不合格「不可」とする。</p> <p>※各学生の学修成果に基づき、上記成績評価の方法、基準により、厳格かつ適正に単位授与を実施している。</p> | |
| <p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> | |
| <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【客観的な指標の設定】</p> <p>履修科目の成績評価を点数化（各科目100点満点）し、全科目の合計点の平均を算出し、成績の分布を客観的に判断できるようにする。</p> <p>90点以上、80点以上、70点以上、60点以上、50点以上、50点未満の6段階の指標を設定する。</p> <p>【成績評価の取り組み概要】</p> <p>(1) 成績の分布状況を作成し、客観的な判断をおこなう。</p> <p>(2) 点数化については、前期期末試験、後期期末試験、普段点より総合的な評価値を算出する。</p> | |
| <p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p> | <p>ホームページ トップ画面→情報公開 「成績管理」 (https://www.ist.ac.jp/moodle/course/view.php?id=24)</p> |

| | |
|---|---|
| <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【卒業の認定方針の策定】 前期末試験、後期末試験、認定実技審査結果、国家試験対策模擬試験履修態度、賞罰等普段点より総合評価を算出し卒業判定会議にて決定する。</p> <p>【卒業判定基準】</p> <p>(1) 試験の成績評価は、各科目とも100点を満点とし、いずれも60点以上をもって合格点とする。全単位取得が卒業の要件であるため、不可科目がある場合は原則として卒業を認めない。</p> <p>(2) 卒業の判定は、教員会議において各授業科目の評価点の他に、履修態度、賞罰等を審議して校長が認める。</p> <p>(3) 各学年の教科毎の欠課時間数とその授業時間数の3分の1を超える者は卒業を認めない。また、欠席日数20日を超えたものは原則として卒業を認めない。</p> <p>【適切な実施に係る取組の概要】 ※各学生の学修成果に基づき、上記成績評価の方法、基準により、厳格かつ適正に卒業認定を実施している。</p> | |
| 卒業の認定に関する 方針の公表方法 | ホームページ トップ画面→情報公開 「成績管理」 (https://www.ist.ac.jp/moodle/course/view.php?id=24) |

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 中央スポーツ医療専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人国際中央学園 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|--|
| 貸借対照表 | ホームページ トップ画面→情報公開 「財務諸表等」 (https://www.ist.ac.jp/moodle/course/view.php?id=24) |
| 収支計算書又は損益計算書 | ホームページ トップ画面→情報公開 「財務諸表等」 |
| 財産目録 | 学園本部窓口にて閲覧 |
| 事業報告書 | 学園本部窓口にて閲覧 |
| 監事による監査報告(書) | 学園本部窓口にて閲覧 |

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|----------|----|---------------------------|-------------------|------------------|------------------|-------------|-------------------|
| | | 医療専門課程 | スポーツ柔整学科 | ○ | | | |
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 昼 | 100 単位時間/単位 | 74 単位時間 /単位 | 5 単位時間 /単位 | 6 単位時間 /単位 | 単位時間 /単位 | 15 単位時間 /単位 |
| | | | 単位時間/単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 90人 | | 82人 | 0人 | 7人 | 12人 | 19人 | |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>【授業方法】 授業日 月曜～金曜日 1コマにつき90分授業 1日3コマを基本とする。 座学もしくは実技による。 (1時限 9:20～10:50 2時限 11:00～12:30 3時限 13:20～14:50)</p> <p>【内容】 (1) 基礎科目 専門学生としての素養を学ぶ。 (2) 専門基礎科目 柔道整復師としての医学知識を学ぶ。 (3) 専門科目 柔道整復の専門的知識及び技術を学ぶ。</p> <p>【年間授業計画】 前期 4月から9月（1科目につき15回を基本とする。） 後期 10月から3月（1科目につき15回を基本とする。） 他に、課外授業、臨床実習等がある。</p> |

| |
|--|
| <p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>【試験の評価方法】</p> <p>(1) 試験の成績評価は、各科目とも100点を満点とし、いずれも60点以上をもって合格点とする。</p> <p>(2) 各授業科目の評価点は学期ごとに、期末試験、臨時試験、あるいは授業科目担当者が適宜行う試験の点数等を総合して授業科目担当者が決定する。</p> <p>(3) 各授業科目の前期及び後期で出された評価点をもとに、年度末に総合評価する。</p> <p>(4) 評価は80点以上を「優」70点以上を「良」60点以上を「可」の3段階で評価し、60点未満は不合格「不可」とする。</p> <div data-bbox="293 589 1190 860" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①期末試験 ②その他の試験 ③出席日数、授業態度等</p> <p style="text-align: center;"> 前期評価点 + 後期評価点 → 総合評価 ⇒ 進級・卒業判定会議 </p> </div> <p>【客観的な指標の設定】 履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。(100点満点で点数化する。)</p> <p>【成績評価の取り組み概要】</p> <p>(1) 学年開始前の講師会にて成績評価について確認</p> <p>(2) 前期期末試験、後期期末試験、普段点より総合評価を算出し進級判定会議にて決定する。</p> |
| <p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>【卒業・進級基準】</p> <p>(1) 「試験の成績評価は、各科目とも100点を満点とし、いずれも60点以上をもって合格点とする。不可科目がある場合は原則として卒業・進級を認めない。なお、合格した者でも本校の秩序を乱し、又は性行不良でその他学生の本分に反する行為のあった者は不合格とすることがある。</p> <p>(2) 卒業・進級の判定は、教員会議において各授業科目の評価点の他に、履修態度、賞罰等を審議して校長が認める。</p> <p>(3) 各学年の教科毎の欠課時間数とその授業時間数の3分の1を超える者は卒業・進級を認めない。また、欠席日数20日を超えたものは原則として卒業・進級を認めない。</p> |
| <p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>eラーニングによる個人学習の推進を行っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策としてのオンライン授業等で培ったノウハウを随時取り入れて学修支援を行っている。</p> |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|--|---------------|-------------------|---------------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 （自営業を含む。） | その他 |
| 10人 (100%) | 1人 (10.0%) | 8人 (80.0%) | 1人 (10.0%) |
| （主な就職、業界等） 接骨院、整形外科、介護施設、等 | | | |
| （就職指導内容） 個別面談、就職ガイダンス、就職説明会開催、等 | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等）） 柔道整復師国家資格 社会人常識マナー検定 3級 経済記事の読み方検定 | | | |
| （備考）（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|----------------|------|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 72人 | 1人 | 1.4% |
| （中途退学の主な理由） 進路変更 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組） 【中退防止】 面談、カウンセリングを随時行い、学生との意志疎通に努めている。必要あれば保護者を交えた面談も行っている。 【中退者支援】 代替医療等への進路変更の相談など | | |

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料 (年間) | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|------------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
| スポーツ 柔整 学科 | 200,000 円 | 940,000 円 | 400,000 円 | |
| | 円 | 円 | 円 | |
| | 円 | 円 | 円 | |
| | 円 | 円 | 円 | |
| 修学支援 (任意記載事項) | | | | |
| | | | | |

b) 学校評価

| | | |
|---|----|---------|
| 自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ トップ画面→情報公開 「学校評価」 (https://www.ist.ac.jp/moodle/course/view.php?id=24) | | |
| 学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) | | |
| (1) 主な評価項目 ①教育理念・目標 ②学校運営 ③教育活動 ④学修成果 ⑤学生支援 ⑥教育環境 ⑦学生受入募集 ⑧財務 ⑨法令遵守 ⑩社会貢献・地域貢献 | | |
| (2) 評価委員会の構成 委員の定数 3名 委員の選出区分 (保護者・卒業生・接骨院、病院等の医療関係者、高等学校関係者、 その他教育に関する有識者) | | |
| (3) 評価結果の活用方法 教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果を評価することにより、学校 法人国際中央学園の設置する中央スポーツ医療専門学校のより実践的な職業教育の質 を確保する。 | | |
| 学校関係者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| 元高等学校教諭 | 2年 | 高等学校関係者 |
| 元群馬県柔道整復師会常務理事 接骨院院長 | 2年 | 医療関係者 |
| 卒業生 同窓会副会長 接骨院院長 | 2年 | 卒業生 |
| | | |

| |
|--|
| 学校関係者評価結果の公表方法 |
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ トップ画面→情報公開 「学校評価」 (https://www.ist.ac.jp/moodle/course/view.php?id=24) |
| 第三者による学校評価 (任意記載事項) |
| |

c) 当該学校に係る情報

| |
|---|
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ トップ画面→情報公開 (https://www.ist.ac.jp/moodle/course/view.php?id=24) |
|---|